

平成 19 年 5 月 11 日
日本銀行盛岡事務所

岩 手 県 金 融 経 済 概 況

1. 概 況

県内経済は、緩やかな回復を続けている。

最終需要の動向をみると、新年度入り後の公共投資が前年を上回っているほか、住宅投資も前年を上回って推移している。この間、個人消費は横這い圏内で推移している。

こうした中、生産は増加を続けているが、これまで改善傾向にあった雇用情勢が足踏み状態になっている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、横這い圏内で推移している。

(大型小売店売上高)

百貨店の売上高は、天候不順の影響から衣料品の販売が低調なうえ、食料品や家庭用品なども落ち込んでいるため、前年を下回って推移している。一方、スーパーの売上高については、衣料品は伸び悩んでいるが、来客数、客単価とも持ち直し傾向にあり、明るさがうかがわれる。

(家電量販店売上高)

家電売上高は、薄型テレビやゲーム機、高付加価値の白物家電などが堅調に推移している中で、就職環境の改善から新生活需要もみられていることから、全体としても持ち直しの方向にある。

(乗用車新車登録台数)

乗用車新車登録台数（軽自動車を含む）は、軽自動車は前年を上回ったものの、全体では小型車を中心に前年を下回って推移している。

(2) 公共投資

公共工事請負金額は、新年度入り後も大型工事が継続していることから、前年を大きく上回って推移している。

(3) 住宅投資

新設住宅着工戸数は、分譲マンションの増加を主因に、2月、3月と2ヶ月連続して前年を上回った。

(4) 設備投資

3月短観における2007年度の設備投資計画をみると、製造業は前年度をやや上回る計画となっているが、非製造業は情報通信の大型投資一巡から、前年度をかなり下回る計画となっている。

3. 生産動向

生産は、増加を続けている。

(電子部品類)

電子部品・デバイスでは、薄型テレビなどのデジタル家電や携帯電話向けを中心に高操業が続いている。

(輸送用機械)

完成車については、新車種の生産本格化から高操業が続いている。自動車部品も、完成車の輸出好調を背景に高水準の生産を続けている。

(一般機械)

自動車関連向け工作機械の生産が好調なほか、各種機械部品も幅広い分野から注文が入り高操業を続けている。

(食料品)

水産缶詰は、青魚製品を中心に好調な生産を続けている。一方、清涼飲料は、スポーツ飲料の伸び悩みもあって、減産傾向にある。

(その他)

鉄鋼の線材は、自動車向けを中心にフル操業を続けている。窯業・土石は、暖冬で出荷が前倒しになったが、土木工事の減少などから全体では低操業を続けている。

4. 雇用・所得の動向

雇用情勢をみると、3月の有効求人倍率(季節調整値)は、0.75倍と2ヶ月連続して悪化したほか、新規求人数も、17年9月以来の前年同月比マイナスとなった。なお、3月末の新規高卒者の県内就職内定率は、95.7%と過去7年間で最高となった。

この間、雇用者所得は前年割れが続いている。常用労働者数は、昨年12月以降前年比増加に転じているが、名目賃金は前年水準を下回って推移している。

5. 企業倒産

4月の企業倒産(負債総額10百万円以上)をみると、件数5件(前年同月比-38%)、負債総額665百万円(同-69%)と落ち着いて推移している。

6. 金融面の動向

預金動向をみると、個人預金は堅調に推移しているが、公金預金が大きく減少したことから、全体でも前年を下回っている。

一方、貸出動向をみると、個人向けは住宅ローンを中心に前年を上回って推移しているが、法人向けが総じて低調なうえ、地公体向けも一部に借入返済の動きがみられ、全体でも前年を下回っている。

以 上

本件に関する問い合わせ先 日本銀行盛岡事務所 TEL : 019-624-3622 (代) http://www3.boj.or.jp/morioka/
--